

新潟県新潟市都心方言における 身体感覚を表すオノマトペ

大橋勝男

はじめに

1. 調査対象地 新潟県の日本海沿岸，中央より北寄りに位置する。信濃川河口沿岸域が都心部である。
2. 調査年月日 平成3年10月31日
3. 話者 石附知恵 大正12年2月1日生れ 満68歳（新津市田家生れ，33歳頃より新潟都心在住。アクセントは郷里のものを基盤としている。）
河村容子 昭和9年3月13日生れ 満57歳（長岡市千手町生れ，18歳より新潟都心在住。アクセントは郷里のものを基盤としている。）
4. 調査者・調査場所 大橋勝男・新潟市中央公民館の一室
5. 調査方法 『方言資料叢刊』第2巻調査票に基づく面接質問調査

注. 1. 解答事象が複数にわたるときは、解答順に記す。

2. () 中の事象は、求める直接の該当語とは認め難いが、関連的に取りあげているものである。

I 全身の感覚

1-1. 快不快

さっぱり サッパリ

○汗をかいたが、風呂に入って～した。

1-2. 寒さ

がたがた ガタガタ<ひどい震え方。>

○寒くて寒くて～震える。

ぶるぶる ブルブル

○寒くて寒くて～震える。

ぞくぞく ゾクゾク<最も寒い感じ。>

○風邪でもひいたのかな。～する。

すうすう ザワザワ

○風邪をひいたみたいだ。背中が～する。

1-3. 熱さ

ほかほか ボカボカ<優しいぬくもり。>，ポッポ<やや強。>

○酒を飲んだら身体が暖まって～してきた。

かっか カッカ<激しい熱の出たとき。>

○卯酒を飲んだら身体が～してきた。

II 皮膚の感覚

ひりひり ヒリヒリ，ビリビリ<より強。>，ピリンピリン<最も強。>

○海水浴で日焼けして背中が～する。

べたべた ベタベタ，ベッタベタ<より強。>（バッシャバシャ<汗で濡れている様

子。>、ベタツク<動詞。>)

○今日は熱い。汗で背中が～する。

むずむず 該当語なし。

○背中に何か入って～する。

もぞもぞ モゾモゾ

○背中に何か入って～する。

かさかさ カサカサ

○空気が乾燥していて、肌が～する。

がさがさ ガサガサ<より強。>

○空気が乾燥していて、肌が～する。

すべすべ スベスベ

○温泉に浸かって肌が～する。

つるつる ツルツル<より強。>、ツルンツルン<最も強。>

○温泉に浸かって肌が～する。

ずきずき ヒリヒリ、ビリビリ<より強。>、ピリンピリン<最も強。>

○切り傷が～痛い。

ズキズキ、ズキーンズキン<より強。>、ズッキンズッキン<最も強。>

○ころんで強く打ったところが～する。

ひりひり ヒリヒリ、ビリビリ<より強。>、ピリンピリン<最も強。>

○擦り傷が～痛い。

ヒリヒリ、ビリビリ<より強。>、ズッキンズッキン<最も強。>

○やけどしたところが～する。

ずきんずきん ズキズキ、ズキンズキン<より強。>

○できものが腫れてきた。～する。

ほとほと 該当語なし。

○できものが腫んできた。～する。

* 該当語なし。(カエー<かゆい>。)

○しもやけがひどくなって～する。

III 頭部の感覚

3-1. 頭

がんがん ズキズキ、ズキーンズキン<より強。>、(アタマガヤメル<頭が痛い。>)

○熱があって頭の奥が～する。

くらくら ボーット、ポヤーット、ポヤーント、ガンガン、グラングラン<最も強。>

○熱で頭が～する。

ずきずき グラグラ、フラフラ、<こめかみの辺りが>ズキズキ<血管の脈動の響くような痛さ。>

○二日酔いで頭が～する。

3-2. 顔面

かっか カッカ

○恥ずかしくて顔が～する。

ぼっと ボーット

○恥ずかしくて顔が～する。

3-3. 目

ちかちか ショボショボ, チカチカ
○テレビを見すぎて、目が～する。

しょぼしょぼ シバシバ, ショボショボ
○煙くて目が～する。

ごろごろ ゴロゴロ<ごみの触る感じ。>, (マツゲガコロンデシバシバスルくさかさまつげのときに。>)
○目にゴミが入って、～する。

3-4. 耳

きーん モンモン, モーント, (ガンガン<騒音状態で聞き取れない状態に。>)
○ああうるさい。耳がまだ～する。

じーん 該当語なし。
○ああうるさい。耳がまだ～とする。

じくじく ジュグジュグ, ジブジブ
○耳の中が腫れて汁が出ているようだ。～する。

3-5. 鼻

むずむず ムズムズ, モゾモゾ,
○くしゃみが出そうで、鼻が～する。

ぐじゅぐじゅ グシャグシャ, クシャクシャ
○風邪をひいたようだ。鼻が～する。

っーん ツーン
○わさびを入れすぎて、鼻が～とする。

3-6. 口

(口全体)

ねちゃねちゃ ネバナバ, ネッパネッパ, ネッパコッパ, ベッタベタ, ベタンベタン
○納豆は嫌いだ。口が～する。

* 該当語なし。
○梅干しを丸ごと食べると、口が～する。

* 該当語なし。
○あんまり甘いものを食べたから、口が～する。

(歯)

がちがち ガタガタ<より強。>
○寒かった。歯が～鳴っている。

かちかち カチカチ, カタカタ
○寒かった。歯が～鳴っている。

ずきずき ズキズキ, ズッキンズッキン, キリキリ
○虫歯がひどくなって、歯が～する。

ちくちく (チクチク<虫歯のなりたてのときの痛さ。>)
○虫歯がひどくなって、歯が～する。

(舌)

ひりひり ヒリヒリ
○辛いカレーを食べたら舌が～する。

びりびり ビリビリ<より強。>, ビリビリ<さらに強。>, ビリンビリン<最も強。>, (ポッポスル<七色唐辛子・カレー等が辛過ぎて。動詞。>)

○辛いカレーを食べたら舌が～する。

3-7. 喉

からから カラカラ, ヒリヒリ

○水をくれ。喉が～だ。

いがいが イライラ, ヒリヒリ, (イガッポイ, イガラッポイ<味覚のほか、風邪ひひきの前兆の喉の感じにも。>)

○あくの抜けていない筍を食べて、喉が～する。

いがいが 該当語なし。(イガラッポイ<形容詞。>, イライラスル<動詞。>)

○この部屋は空気が悪い。喉が～する。

ぜえぜえ ゼーゼー, ゼコゼコ<風邪をこじらせ、肺炎になったようなときに。>, ヒーヒー

○息が苦しい。～いつている。

ひゅうひゅう ヒューヒュー<気管支炎・ぜんそく等のときに。>

○息が苦しい。～いつている。

IV 胴体の感覚

4-1. 肩

こりこり コリコリ

○肩が痠って～する。

4-2. 胸

ドキドキ ドキドキ

○ああ恐ろしかった。まだ胸が～する。

どきんどきん ドキンドキン<より強。>

○ああ恐ろしかった。まだ胸が～する。

どっきんどっきん ドッキンドッキン<さらに強。>

○ああ恐ろしかった。まだ胸が～する。

とくんとくん 該当語なし。

○ああ恐ろしかった。まだ胸が～する。

とっくんとっくん 該当語なし。

○ああ恐ろしかった。まだ胸が～する。

きゅっと ギュット, キュット, キューント

○悲しくて悲しくて胸が～としめつけられる。

むかむか ムカムカ, ムッカムカ

○悪いものを食べたようで、胸が～する。

4-3. 腹

(空腹)

ぐうぐう グーグー

○お腹がすいて～いう。

きゅるきゅる 該当語なし。

○お腹がすいて～いう。

(満腹)

たぶたぶ ガボガボ, タッポンタッポン

○麦茶を飲み過ぎてお腹が～する。

ちゃぼちゃぼ 該当語なし。

○麦茶を飲み過ぎてお腹が～する。

ちゃぶちゃぶ 該当語なし。

○麦茶を飲み過ぎてお腹が～する。

ばんばん ボンボン、バンバン <より強。>

○食べ過ぎた。腹が～だ。

(腹下し)

ごろごろ シクシク、チクチク、キリキリ

○何か変なものを食べたようだ。腹が～する。

ぐるぐる 該当語なし。

○何か変なものを食べたようだ。腹が～する。

びーびー 該当語なし。(モギレル<下痢していて我慢できない状態で便所に飛び込む。そのような状態に言う。>)

○下痢気味だ。腹が～する。

4-4. 胃

しくしく チクチク

○困ったことが多くて(ストレスがたまって)、胃が～痛む。

じくじく 該当語なし。

○困ったことが多くて(ストレスがたまって)、胃が～痛む。

きりきり キリキリ <より強。心配などで。>

○困ったことが多くて(ストレスがたまって)、胃が～痛む。

4-5. 尻

むずむず 該当語なし。

○居心地が悪い。尻が～する。

もぞもぞ モゾモゾ

○居心地が悪い。尻が～する。

V 手足の感覚

(手)

ぶるぶる ブルブル

○手が～震えて、箸がつかめない。

(足)

がくがく ガクガク

○歩きすぎて、足が～する。

(その他)

ぬるぬる ヌラヌラ、クニャクニャ、グニャグニャ

○気持ちが悪い。～したものが手(足)にあたった。

ぬらっ(と) ヌラッ

○気持ちが悪い。～したものが手(足)にあたった。

VI 関節(骨)の感覚

ごきごき 該当語なし。

○寝違えて首が～する。

ぐきぐき 該当語なし。

○寝違えて首が～する。

ばきばき 該当語なし。

○そんなに曲げると、骨が～(と)折れそうだ。

ぼきぼき ボキボキ、ボキボキ

○そんなに曲げると、骨が～(と)折れそうだ。

Ⅶ その他

皮膚

いらいら イライラ

○指に刺が刺さって～する。 ○指先がささくれて～する。 ○爪が引っ掛けて～する。 ○喉に骨が刺さって～する。

ざらざら ザラザラ

○砂を敷いたような感じで、手・足・舌などが～する。

びりびり ビリビリ, ビリンビリン <より強。>

○風呂が冷たくて～する。

びりびり ビリビリ

○炬燵が熱くて～する。 ○冷たい手を炬燵に入れると、手が～する。

○熱いお湯に手を入れると～する。

びりびり ビリビリ

○風呂が熱くて～する。

ぼっぼ ポッポ (怒っている様子にも。)

○走ってきて、体が～してる。 ○お湯に手を入れていたら、手が～した

ほかほか ホカホカ, ホッホホ <共に、綿物を着たり、カイロをしたときのようなほんのりとした温かさ。>, ボカボカ <風呂などで体の温まったときの温かさ。>

○カイロしたら、体が～してきた。 ○いい湯に入って、体が～した。

まとめ

1. 全体的に、語彙量が豊富である。1事項に2種以上の語彙が認められることがかなりある。(例. 納豆がネバネバ, ネッパネッパ, ネッパコッパ, ベッタベタ, ベタンベタン。)
2. 1事象が、多岐の内容を表わす場合もある。(例. ビリビリ・ビリンビリンが、海水浴での日焼けの痛さ、切り傷・擦り傷の痛さ、カレーの辛さ、風呂の冷たさ、お湯の熱さ、炬燵の熱さなどを表わす。)
3. 同事項に関しながらも、その微妙な違いを言い分ける事象が多岐にわたり存在している。(例. 温かさを、ホカホカ, ホッホホ <共に、綿物を着たり、カイロをしたときのようなほんのりとした温かさ。>, ボカボカ <風呂などで体の温まったときの温かさ、ポッポ <走ったりしたときの体のほてり方>。)
4. 度合いの強弱を表わす事象が、3段階にわたって存在する傾向が強い。

強めの原理

- a. ビリヒリ→ビリビリ (半濁音化)→ビリビリ (濁音化)→ビリンビリン (撥音添加)
 - b. ズキズキ→ズキーンズキン (長音・撥音添加)→ズッキンズッキン (促音添加)
5. 2回繰り返し型の隆盛。主に2拍語基, 他3～4拍語基。
 6. 身体感覚を表わす語彙分野にあっては、オノマトベによらねば表現できないものが極めて多い。それに代わるものとして、動詞・形容詞などがある。が、その種類・量は極めて少ない。

(おおはしかつお 新潟大学教育学部)